

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	日頃の市町村との連携が、事務的な域から脱していない。	保険者である市と何でも相談できる。	事務連絡の際にも必ず担当と話を交わし、日頃からの連携を取る。	12か月
2	6	構造上死角が多く、施錠が仕方がない、見守らなくても無断外出はないと、職員の慢心、工夫のない介護になっていないか。	職員全員が、ユニット内の利用者9名の行動をきちんと把握できる。	①利用者の落ち着かない時間帯を把握し、先に声をかけてニーズを解決する。 ②レクリエーションや個別外出を充実させ、職員とのコミュニケーション、信頼関係を確立する。	6ヶ月
4	26	介護計画・モニタリングに対し、職員の視点からのものになっており、家族の気づきや要望が後になっている。	本人・家族本位のケアプランにする。	①家族の意向を、職員が面会時や電話などでプラン作成前に確認。 ②担当者会議にご家族・本人を呼ぶ。	12ヶ月
3	2	環境的な問題もあるが、地域交流が不十分である。	これまで交流のなかった吉河地区との交流を図る。 高野地区との交流を深める。	①催し物への参加を募り、また地区行事に参加する。	6ヶ月
5	1	法人理念はあるが、苑独自の理念が不明確。	運営の基本方針である ①利用者の意思、および人格を尊重します。 ②できるだけ家庭的な雰囲気の中で自立的な生活が送れるようにします。 ③ご家族や地域住民との交流を大切にします。の3つを理念に掲げ、認識する。	①玄関の「和顔愛語」下に掲示 ②月1回のミーティング時に意識確認	1ヶ月
6	35	緊急時の非常食や飲料水を備蓄していなかった。	緊急時の非常食や飲料水を備蓄・周知する。	①適量を法人栄養士が計算して購入、管理者と共に品質管理していく。 ②職員全員が備蓄に対する認識を持ち、非常時に活用できるよう、避難訓練時に確認。	1ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。